

## 要 旨

### 1 はじめに

近年わが国において、教職員の精神疾患による休職者率は高水準であり、教職員のメンタルヘルスへの対策が急務となっている。児童生徒の健康問題の多様化、深刻化に伴い、養護教諭においても、仕事のストレスによる精神健康の影響が懸念される。そこで本研究は、養護教諭の職業性ストレス尺度を開発し、養護教諭の職業性ストレスと抑うつとの関連を明らかにすることを目的とした。

### 2 方法

2011年1月～2月に東京都の公立小・中・高等学校に勤務する養護教諭を対象に調査を行い、回答は398人から得られた(回収率、53.9%)。調査内容は、基本的特性、養護教諭の職業性ストレス尺度、抑うつ尺度(CES-D)であった。

### 3 結果と考察

#### 1) 養護教諭の職業性ストレス尺度の開発

現職養護教諭からのインタビュー調査、先行研究、一般的職業性ストレス尺度を基に、ストレス尺度案を作成した。得られた回答に対し、探索的因子分析および確認的因子分析を行い、16領域、69項目をストレス尺度と決定した。それぞれの領域名は「職場の人間関係、雰囲気悪さ」、「精神的報酬の乏しさ」、「役割の曖昧さ」、「仕事上のサポートの乏しさ」、「質的負担」、「子どもとの人間関係の困難さ」、「量的負担」、「保健室の環境上の問題」、「職員の学校保健に対する理解の乏しさ」、「研修の機会の少なさ」、「難しい問題を抱える子どもへの対応」、「学校医との関係の難しさ」、「保護者との関係の難しさ」、「ワークライフバランスに影響する仕事の負担」、「保健医療の専門的サポートの乏しさ」、「職場における配慮や公正さの乏しさ」とした。

#### 2) 基本的特性、職業性ストレス尺度と抑うつ得点との関連

抑うつと直接関連があったストレス尺度は、「職場の人間関係・雰囲気悪さ」、「精神的報酬の乏しさ」、「役割の曖昧さ」、「ワークライフバランスに影響する仕事の負担」、「保健医療の専門的サポートの乏しさ」の5領域であった。さらにこれらの5領域には、『養護教諭経験年数』『スクールカウンセラー配置の有無』『ネットワークの保有数』などの基本的特性が関連していた。つまり、これらの基本的特性は、ストレスの5領域を通して間接的に抑うつに作用することが示唆された。

### 4 まとめ

「養護教諭職業性ストレス尺度」を作成し、抑うつとの関連を明らかにした。その結果、抑うつに直接的に作用するストレスが明らかになり、基本的特性は間接的に抑うつに影響を及ぼすことが示唆された。

養護教諭が精神的に健康で、働きやすい職場環境にするためには、これらの直接的な要因のみならず間接的な要因の改善を図ることが重要であろう。例えば、養護教諭どうしや、関係機関とのネットワークの充実、スクールカウンセラー配置の拡充などが考えられる。

Key Words : 職業性ストレス、精神的健康、養護教諭、抑うつ